

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-137	A-120	16-050
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol drinking patterns and risk of functional limitations in two cohorts of older adults. 高齢者を対象とした2つのコホートにおけるアルコール摂取パターンと機能的制約のリスク		
<b>執筆者</b>		
León-Muñoz LM, Guallar-Castillón P, García-Esquinas E, Galán I, Rodríguez-Artalejo F.		
<b>掲載誌</b>		
Clin Nutr. 2016 May 24. pii: S0261-5614(16)30097-8. doi: 10.1016/j.clnu.2016.05.005. [Epub ahead of print]		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、機能的制約、コホート研究		27256558
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 高齢者において、適度なアルコール摂取は機能的制約リスクの低下と関連することが報告されているが、特徴的なアルコール摂取パターンを示す地中海地域を対象とした検討は未だ行われていない。		
<b>方法：</b> 60歳以上のスペイン地域住民からなる Universidad Autónoma de Madrid cohort ならびに Seniors-ENRICA cohort の両コホート研究のデータを用い検討を行った。両コホート対象者は、ベースラインの飲酒量により非飲酒者、禁酒者、中等度飲酒者、重度飲酒者に分類した（中等度と重度の閾値は男性では 40g/day、女性では 24g/day 以上とした）。Seniors-ENRICA cohort では地中海飲酒パターン (Mediterranean Drinking Pattern, MDP) の評価を用いた。すなわち、ワインを好んで飲む（アルコール摂取の8割以上がワイン）および食事の際にしか飲酒をしないことを中等度飲酒と定義した。両コホートともに3.5年の追跡し、機能的制約として機動性 (mobility)・敏捷性 (agility)・手段的日常生活動作能力 (IADL) を評価した。飲酒パターンと各機能的制約との関連をロジスティック回帰分析により検討した。なお、性別およびベースラインでの年齢・教育・生活様式・BMI・がんや糖尿病などの疾患・機能的制約を調整して解析を行った。		
<b>結果：</b> 非飲酒者と比較して禁酒者は IADL 低下リスクが高く（統合調整オッズ比 [paOR]: 1.63, 95%信頼区間 [CI]: 1.04-2.21）、対照的に中等度飲酒者は機動性低下 (paOR: 0.80, 95%CI: 0.63-0.97)、敏捷性低下 (paOR: 0.82, 95%CI: 0.65-0.99)、IADL 低下 (paOR: 0.54, 95%CI: 0.39-0.69) のリスクが低かった。自己評価で健康状態がよくないとした群において、MDP は敏捷性低下リスクが低かった (paOR: 0.51; 95%CI: 0.27-0.97)。		
<b>結論：</b> 高齢者では中等度飲酒が機能的制約の低リスクと関連した。しかし、高齢者は特にアルコールの影響を受けやすいため、本研究結果が必ずしもアルコール摂取を推進するものとは言えない。		